

## 第2回北海道立文学館運営評価委員会 会議録

開催日時 令和3年3月16日（火） 13:30

開催場所 北海道立文学館講堂

### 1 次 第

(1) 主催者挨拶

(2) 会 議

ア 令和2年度事業実績

イ 令和3年度事業計画案

ウ 新型コロナウイルス感染防止対策について

エ その他

### 2 出席委員（敬称略 50音順）

氏 名	区 分 及 び 所 属 等
上野 靖	【社会教育関係者】 （公財）北海道生涯学習協会専務理事
大鐘 秀峰	【学識経験者】 札幌国際大学教授
辰巳奈優美	【利用者】 （公財）北海道文学館賛助会員（俳人協会北海道支部理事）
山田 岳志	【地域関係者】 中島公園管理事務所長（中島公園地域コミュニティ推進協議会事務局長）
渡部 浩士	【学校教育関係者】 札幌市新川西中学校長（北海道学校図書館協会会長）

### 3 委員からの意見等

- コロナ禍で利用者が減少している中で、昨年と比較して「短歌コンテスト」は昨年より増えています。実施に当たって何か工夫されたことがあったのでしょうか。  
→特に工夫したといったものではありませんが、毎年、当方から授業等での取り組みを願っていることもあり、今年は特に中学生の応募が多くありましたが、国語の先生が意識して授業の中に取り入れてくださっているとか、長期休業期間中の課題として活用していただいているところが多かったのではないかと思います。
- コロナ禍の中であって、俳句も同じなのですが、自分の言葉で表現する、普段口にできないことを表現できるのは素晴らしいと思います。

- コロナウィルス感染症拡大の影響で利用者が減少したのは公園も同じだったのですが、悪いことばかりではなく、近所にお住まいの方から、こんな素晴らしい公園があることを知ったというような嬉しい声をいただきました。そういった点では新たな利用者が少し増えた様な気がしています。
- 毎月、旬会で閲覧室の共同研究室と講堂を利用させていただいていますが、感染対策をとっていれば大丈夫と自分では思っているのですが、会員の中には心配で参加できない方がおり、通信でやっています。暖かくなってここ（文学館）でという気持ちはあるのですが、もう少しばらばら休会かなと感じています。
- リモート・ミュージアムで「アイヌ絵巻」を拝見しました。ホームページ上でもっと目立つようにしてもらえると良かったと思いますが、解説も判りやすく楽しめましたし、コロナ禍が収まったら実際に観に行きたいと感じる人がいるのではないかと思います。
- 道民カレッジで「ほっかいどう学」という講座を10回ほど計画していましたが、コロナ禍により軒並み中止の対応をとらざるを得ませんでした。参加者を制限して少人数での開催は当然だと思いますが、感染防止の観点から特に工夫したこととか、参加者からの要望とかがあれば参考に教えていただきたい。
  - 特別展「せなけいこ展」は、他県での開催状況から相当な観覧者数が見込まれましたが、当館はスペースが狭い中でいかに開催するかについて頭を悩ませました。人数制限は勿論で、今はポピュラーとなった受付の事前予約制の実施、その予約状況を踏まえた受付、案内スタッフの配置等により、予約数による観覧者は満杯状態が続きましたが、割とスムーズに対応できたように思います。講演会等の会場は、講堂しかないため、通常は80名程度収容できるところを30名くらいに絞って開催しました。厳しすぎると思われる人数制限ですが、空調的には外気を取り入れることになっていますが、窓の開閉による定期的な換気ができない構造を考慮したものです。5、60名程度で定期的に講堂を利用していた団体には、他の会場を確保していただきました。
- 令和3年度の事業計画については、かなり練られたものと思いますが、「せなけいこ展」を拝見し、お母さんが子どもを連れてきたりしてファミリーで来られている姿を拝見し、若年層の取り込みって凄く良いことだと思いました。中島公園という良い環境なので、家族で公園で遊んで、文化的なものにも触れて、帰りには販売グッズをたくさん買って行く姿を見ました。若い人がリピーターになって何度も文学館に足を運ぶようになれば素敵だと思います。今後、企画を考えるときに、例えば絵本作家の展覧会とか、小中学生にとって文学への切り口になると思われる教科書に取り上げられている作家の展覧会であれば、見に行こうという気になるのかなと思いますので、そういったところを意識していただけたらと思います。「手島圭三郎展」は興味深いと思いますし、「太宰治展」は勉強したいなと思いました。若いお父さんとお母さんそれと子どもに興味を引くものと思います。
  - 「せなけいこ展」や「ミッフィー展」などを開催しましたが、やはり若い世代に文学館を知ってもらうには、小さい子どもをターゲットにした展示もしていくべきではないかと思っています。「せなけいこ展」は小さいお子さんが対象でしたが、もう少し年齢の高い若年層を対象とした展示なども今後検討していきたいと思います。
  - 教科書に載っている作家をとりあげるのも良いアイデアだと思います。

いずれにしても、少しでも文学館を知ってもらうための取組をしていくことが必要だと思っています。中島体育センターで歩くスキーをやっていますが、今年は「ナイトクロカン in ホワイトイルミネーション」と銘打って、夜間に歩くスキーを楽しんでもらうイベントがあり、文学館の壁にプロジェクションマッピングによる映像を映し出すという企画に協力しましたが、文学館の活用には色々な可能性があるように思いました。

- 特別展「北海道の災害と文学」は、東日本大震災10年目という時代と社会を結びつけた展覧会で凄く良いと感じます。文学というのは、時代性といった要素があると思います。今年オリンピックが札幌に来ますし、冬のオリンピックの開催地への立候補も検討されていることを考えると、「札幌」、「北海道」の時代性を考えながら人を呼び込むのも良い考えだと思います。

→今年、オリンピックが確実に実施されることになれば、ミニ展示みたいなことを検討していくことも必要かなとは考えています。